

学部におけるFDの実施状況	
01_文学部	<p>1. 組織的な取り組み</p> <p>1) 1年生にはクラス担任を、2年生以降は専攻別に専攻担任を置き、問題があった場合には、学習指導が対処する組織的な体制を整えている。専攻ごとに定期的に会議を開催し、教員間で学生に関する情報を共有し課題に対処している。</p> <p>2) 文学部全体として学習指導会議（年3回）、語学専任者会議（年2回）を開催し、学部カリキュラムの運営上の課題について検討や情報交換を行っている。</p> <p>3) 文学部ウェブページを継続的に更新・拡充し、特に17専攻の特色や若手研究者の研究紹介を公開することで、多様性とフォーラムを重視する文学部の特色を広報している。</p> <p>2. 学習状況調査</p> <p>1) 2021年度より、毎学期末に履修者50名以上の講義と必修語学を対象として授業評価アンケートを実施している。</p> <p>2) 毎学期に1年生全員の出席状況調査を実施し、出席不良の学生に対して日吉主任・学習指導が面接を行っている。</p> <p>3) 入学時および1年終了時に英語のプレイスメントテストの実施を継続した。さらに2023年度以降のカリキュラム改定に向けて、過去のテスト結果のより詳細な分析を実施し、ヒアリング測定のためのテストを開発した。</p> <p>3. 入試関連</p> <p>1) 2025年度の一般入試の実施に向けて、学部問題検討・FD委員会のメンバーを拡充し、入試科目等の検討を開始した。</p> <p>2) 文学部専任教員を対象に現在の入試制度に関するアンケート調査を実施し、その結果を委員会で検討した。</p> <p>3) 委員会での検討をもとに、2025年度入試における入試科目・入試制度の一部改定を教授会で審議し、承認した。</p> <p>4. 3つのポリシー</p> <p>1) 2022年度に通信教育課程の3つのポリシーを全面的に改訂し、通信教育部ウェブサイトで公開した。</p> <p>2) 2022年度に通学課程の全専攻のディプロマ・ポリシー、およびいくつかの専攻のカリキュラム・ポリシーを一部改訂し、文学部ウェブサイトで公開した。</p> <p>5. 講演会</p> <p>1) 2022年3月に佐々木銀河氏（筑波大学）による講演会「発達障害の診断や傾向のある学生への合理的配慮と修学支援」を開催した（文学研究科、社会学研究科共催）。</p> <p>2) 2022年12月に佐々木銀河氏（筑波大学）による講演会「発達障害の診断や可能性のある学生への対応能力の向上に向けて：仮想事例動画を用いた実践的事例検討」を開催した（文学研究科、社会学研究科共催）。</p>
02_経済学部	<p>■ コロナ禍における授業運営に係る情報共有と相談対応（日吉キャンパス）</p> <p>日吉キャンパスでは、2020年度に立ち上げたオンライン授業に関するワーキンググループの活動を継続しながら、専任・非常勤スタッフの窓口当たる学習指導担当者やカリキュラム委員を中心に、授業形態・授業運営の課題に取り組んだ。</p> <p>(1) 対面授業において新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者が出た場合の対応</p> <p>塾内で通知されている標準の対応に加え、語学など少人数クラスにおける具体的な運用方法について、事例をもとに専任者間で検討し、非常勤講師からの相談に応じられる態勢づくりを行った。</p> <p>(2) 入国できない学生の授業参加</p> <p>日本に入国できず、対面授業を受講できない留学生等に対しては、各教員がオンライン・リアルタイム配信やオンデマンド教材の提供を行ったが、特にグループワークなど教室内での活動への参加に課題が多かったため、各教員による工夫について主として部会単位で情報交換をおこない、ノウハウの蓄積を図った。</p> <p>■ 2022年度以降の授業形態・授業運営に関する検討（日吉キャンパス）</p> <p>2022年度は、キャンパス内で多くの科目が対面授業となることを見込まれたため、授業形態について学部としての基本方針を定めるとともに、科目の性質ごとに、どのような授業運営が可能か、望ましいかについて、各部会や教室を単位としつつ、幅広い議論を重ねた。コロナ禍での実践により得られたオンライン授業の効果的な活用法について、グッド・プラクティスとして集約する作業を進めており、それらを参照しながら、多様なメディアを用いた対面授業の運営につなげることを引き続き展望している。</p> <p>■ オンライン教育についてのフォーラム展開(掲示板「オンライン授業フォーラム」、三田・日吉キャンパス)</p> <p>2020年4月の緊急事態宣言発出後、多数の教員をまきこんだオンライン教育についてのフォーラムが掲示板形式で持たれた。参加教員は、三田・日吉両キャンパス所属にわたっている。フォーラムで議論された話題は多岐に及んでおり、オンライン教育にかかわるかなり技術的な論点から、オンライン教員が及ぼす影響、学生の視聴環境についての議論などに関して、たちいった議論が展開されてきた。教員には欧米の大学での教育経験がある者が少なからずおり、オンライン教育で先行する大学のノウハウが伝えられた。</p> <p>■ オンライン授業についての学生に対するアンケートの実施（三田キャンパス）</p> <p>2021年3月、同年7月に三田キャンパスの学生を対象にオンライン授業についてのアンケートを実施し、その結果を公表すると共に、自由記述のなかで得られたオンライン授業に関するグッド・プラクティスの紹介を行い、より良い授業の提供のための情報を教員に提供した。</p> <p>■ 定例授業アンケートの実施（PEARLプログラム）</p> <p>かねてから、経済学部PEARL科目の担当者には、各授業について学生からの匿名による授業アンケートを行うよう求めている。学生からのコメントはPEARL委員会で集計し、担当者に周知している。全授業ではないが、かなりの数のコメントが寄せられている。その内容は、授業のやり方、コンテンツから、教員個人の英語力にまで及び、授業の改善に役立てられている。</p>

03_法学部	<p>(1) 法学部主設置科目では、各学期末に「学生による授業評価アンケート」を実施している。授業内容は充実していたか、計画的な授業進行が担保されていたか等を履修者に評価してもらうものである。授業担当者により集計され、所見が付されたアンケート結果は、ウェブ上で公開している。</p> <p>(2) 法学部及び法務研究科の間に教育方法や内容についての緊密な連携を図る趣旨で「連絡協議会」を設置し、定期的な会合の機会を設けている。</p> <p>(3) 法学部では2020年4月、法曹コース※を設置した（2019年4月入学者より適用）。その最初の適用者が2021年3月に卒業し、同年4月より法科大学院に進学した。※法学部等設置大学と法科大学院の連携による法曹育成プログラムで、標準モデルは、学部を3年間で早期卒業し、連携法科大学院の既修者コース（2年制）に進学するというもの。</p> <p>(4) 2021年8月には、男女平等について考える材料を提供するため、アメリカ大使館の協力の下にオンライン映画上映会を行った。上映されたのは、Sharon Rowen 監督のドキュメンタリー映画“Balancing the Scales”（邦題：法の世界の男女平等）である。また、これにあわせて、オンライン講演・座談会「日本における女性法律家の現状と未来」を開催した。</p> <p>(5) 2022年12月から翌2023年1月にかけて、「ダイバーシティ実態調査」を実施した。法学部の教育・研究において性別、性的指向、障がいの有無、国籍や人種・民族・文化的出自、家庭の経済状況など、学生や教職員が持つ多様な背景が尊重され、すべての人が安心・安全に過ごすことができる環境の創出・維持を目指し、そのための制度と組織運営の改善策を検討するのに必要な基礎情報を得ることを目的としたウェブアンケート調査である。調査対象は法学部所属の学部生、教職員、法学部で授業を担当する非常勤教員であり、調査結果はこれらの調査対象者に公表された。</p>
04_商学部	<p>商学部では、現在、主に次のような取り組みを行っている。</p> <p>(1) 出版物などで教育上有益な貢献および業績を挙げた商学部教員（個人またはグループ）を対象に商学部教育メディア賞を設置し、教員が教育上の工夫をする動機づけを行っている。</p> <p>(2) 分野ごとの会議を定期的に行い、教育上あるいは研究上の問題に対する意見交換を行い、日頃の学生指導に活かしている。</p> <p>(3) 商学会報告会を定期的に行い、様々な分野との研究交流を通じて、各自の研究教育活動に活かしている。</p> <p>(4) 他大学とのインターゼミナールを通じて、学生相互の研究交流を図り、学生指導に活かしている。</p> <p>(5) とくに経営学分野ならびに商業学分野では、三田祭で公開の研究発表会を行い、学生指導に活かしている。</p> <p>(6) 授業評価アンケートを行い、次年度の改善につなげている授業科目もある。</p> <p>(7) 2025年度の学習指導要領改訂後入試に向けて、入試検討チームを立ち上げ、準備を行なっている。</p> <p>(8) テニユアトラック制度を外国人に加えて、日本人にも適用し、若手研究者の研究・教育環境を改善し、商学研究科とも連携して大学院教育を強化している。</p> <p>(9) 研究教育基金運営委員会を強化し、従来の寄付講座資金の基金化を行ない、学部研究教育環境を改善している。</p>
05_医学部	<p>2019年から体系だったFDを実施している。2020年度からは、すべての教員に、年4回のうち2回の受講義務を課した。また、FD入門は、在任中に1回は受けるべき概論FDとして毎年実施している。2020年度から、すべてオンラインで実施し、そのアーカイブを提供することで、忙しい教員の便宜をはかっている。2021年度のFDは、「オンライン教育お困り相談室」「コロナ禍における臨床実習～学生の声と研究の知見～」「臨床実習の評価～CC-EPOCとパフォーマンス評価～」各教室の教育事例の紹介」を実施した。2022年度のFDは、「医学教育統轄センターフェローの活動報告」「慶應義塾大学医学部カリキュラムと医学教育の潮流」「基礎・臨床における学生評価の分析と改善への提案」「臨床実習とその評価ツール CC-EPOC」を実施した。</p> <p>また、2021年度から、希望者に対して、医学教育実践者コースという半年間の集中型FDを実施している。2021年度は32名が修了した。</p>
06_理工学部	<p>理工学部における主なFD活動は、ほとんどすべての授業科目を対象に毎学期実施している授業アンケートに基づいて実施されている。この授業アンケートは、2006・2007年度に試行され、2008年度より現在の形になり、インターネット上のシステムとして稼働している。学生はkeio.jpにログインしてからアンケートに答えることになるが、だれがどのような回答をしたか教員側に分からないようになっている。アンケートの内容は、授業の内容や教授方法に関して4段階で評価する項目と授業の良い点、改善すべき点等を自由記述で回答する項目からなる。授業担当者は、質問項目を追加することも可能である。アンケートの結果に対して教員はコメントを回答し、このことで次年度の授業に向けた自己改善を図っている。アンケート結果およびコメントは学生に公開され、次年度の履修科目を決定する際の参考資料としても活用している。</p> <p>一方、組織的取り組みとしては、アンケート結果を学科・専修・部会単位で検討して授業担当者に対してフィードバックを行うとともに、一年に一度、活動状況報告書を作成している。さらに、数名の委員によるFD委員会を学期ごとに開催し、全体スケジュール、システム改良の検討、質問項目の精査などを定期的に行っている。また、アンケート結果を解析し、理解度や有意義さなどの数値が高い授業を、日吉・矢上地区それぞれより選出し、その科目名と授業担当者を教授会にて発表することによって、高い評価を受けた授業の教授法等について学部全体で情報共有をしている。</p>
07_総合政策学部・環境情報学部	<p>【1】英語授業のトレーニングの実施 SFCではFDの一環として、2014年度から教員向け英語による授業運営に関するトレーニングを実施している。2021・22年度は以下のトレーニングを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践トレーニング「実際に英語で行われた授業に対するアドバイス」 <p>各学期に英語で開講される授業（GIGA科目）の20～30分間を録画し、外部専門家（ベルリッツ所属の英語ネイティブ講師）がフィードバックシート（および希望者には後日面接）にてアドバイスを行う。希望者には後日オンライン面談も設定可能。</p> <p>【2】授業調査の実施 各学期1回（学期終わり）、授業調査を実施している。 全学生・全教員が自分がかかわった全ての授業を振り返り、教員と学生の相互のフィードバックと、今後の履修者への情報提供を行う。</p> <p>【3】オンライン授業各種サポート（Webページ作成、セミナー実施） 昨年度に引き続きオンライン授業のサポートを実施した。</p> <p>【4】アゴラ（シン・アゴラ）の開催 着任時期や年齢やステータスに関係なく、教職員全員が率直に意見を言い合うシン・アゴラという「知の対話」の場を設け、SFCにおける研究と教育のあり方などについて、頻りに開催し議論を重ねている。 2021年度に実施した以下の5回では、COVID-19の対策から教員に深く関わるカリキュラム、科研費など多岐に渡る話題が提供され、活発な議論が交わされた。</p>

	<p>「ポピュリズムと陰謀論の最新動向」「カリキュラム評価改訂タスクフォースより中間報告」「極限サイヤンス」「目指せ科研費ゲット！そのコツ」「SFC教室の換気能力の測定結果」</p> <p>2022年度に実施された以下の7回では、キャンパスに関わるさまざまな取り組みから世界情勢まで、総勢20名の教職員が登壇し、多種多様な話題提供や議論がなされた。</p> <p>「SFC教員、ロシアーウクライナ情勢を語る」「SFC周辺地区のまちづくりの可能性」「新任教員、いらっしやい！2022」「SFCキャンパスのカーボンニュートラル化について」「キャンパスメンタルヘルスの現在-SFCの今後について考えよう」「SFCキャンパスのさらなる国際化」「新任教員、いらっしやい！2022...秋」</p> <p>【5】SFC FACULTY AWARDの実施 教員によるSFCへの貢献のうち特に顕著な活動を讃えて互いの模範となし、SFCの持続的かつ自律的な発展を促進することを目的に、2020年度より「SFC FACULTY AWARD」を開設している。 2021年度は総合政策学部5名、環境情報学部9名、看護医療学部5名、大学院政策・メディア研究科3名に授賞した。2022年度については現在審査中である。</p>
08_看護医療学部	<p>学部に所属する全教員を対象に年2回の集団でのFD研修を実施している。その活動内容については、学部ウェブサイト内にある教員用ページの中に記録している。また、各学期に授業調査を実施している。以下、FD研修と授業調査の概要である。</p> <p>【FD研修会】 集団でのFD研修を年2回実施している。1回は研究倫理に関する内容、1回は教育研究能力の向上を意図した内容で実施している。</p> <p><2021・2022年度実績> 2021年4月テーマ：「研究倫理と倫理申請」 2021年12月テーマ：「看護医療職の皆さんに知っておいていただきたいトラウマへの配慮及び法的視点について～急性期における性暴力・性虐待被害者（児）受診時の留意点～」 2022年4月テーマ：「研究倫理の基礎」 2022年9月テーマ：「GTDタイムマネジメント手法の基本」</p> <p>【授業調査】 各学期の終了時に授業調査を実施している。教育の改善を目指すものであり、学生からのフィードバックを受け、教員がそれに答える形で実施している。授業を振り返り、今後の改善を考える機会となっている。</p>
09_薬学部	<p>教員は講演会、研修会に原則全員参加となっている。また、薬学部の関連部署の職員も参加している。FDの開催記録および資料は、全教職員が閲覧できるBOXにて共有し、各FD終了後にGoogleフォームを用いてアンケートを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを通常毎学期全科目実施。全教員に結果を開示。 ・医療系三学部（医学部、看護医療学部、薬学部）での多職種連携合同教育の実施に合わせて、三学部の教員同士の連携、認識の共有などを目的とするFDを年1回実施。実施報告は、医療系三学部合同教育のウェブサイト（http://ipe.keio.ac.jp/index.html）にて公開。 <p>【2021年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆第1回FD研修会「倫理・コミュニケーション系学習目標と自己評価としてのルーブリック評価について」 実施日：2021年11月29日（月）13:00～13:50（ウェブ会議形式） 講師：石川さと子准教授（教務担当補佐、倫理系ルーブリックプロジェクトチーム） ◆第2回FD研修会「実務実習の現状と本学ならびに関東地区調整機構が目指す「三薬連携」の強化について」 実施日：2022年2月1日（月）13:00～13:50（ウェブ会議形式） 講師：中村智徳教授（薬学部医療薬学・社会連携センター長／関東地区調整機構長） ◆第3回FD研修会「第5回薬学部教員と学生相談室カウンセラーとの懇談会」 実施日：2022年3月14日（月）13:00～13:50（ウェブ会議形式） 講師：高山 緑教授（学生相談室長）およびカウンセラー <p>【2022年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆第1回FD研修会「利益相反（COI）マネジメントを正しく理解する」 実施日：2022年7月25日（月）13:00～13:50（ウェブ会議形式） 講師：飯田香織里教授（東京医科歯科大学 統合イノベーション推進機構） ◆第2回FD研修会「次期コアカリキュラム改訂に関する情報共有」 実施日：2022年9月27日（火）13:00～13:50（ウェブ会議形式） 講師：本間 浩教授（薬学教育協議会） ◆第3回FD研修会「第6回薬学部教員と学生相談室カウンセラーとの懇談会」 実施日：2023年3月22日（水）13:00～13:50（ウェブ会議形式） 講師：高山 緑教授（学生相談室長）およびカウンセラー
研究科におけるFDの実施状況	
01_文学研究科	<p>各専攻・分野レベルで、全構成教員が参加するスタッフ会議を定期的開催し、研究指導演法の更新を常態的に図っている。また、大学院生の研究水準を専攻・分野全体で向上させるべく、合同／共同ゼミや修論・博論発表会を開催した。コロナ禍対策として開催したオンラインでの研究発表会には、多くの課程修了者や専門研究者も参加し、大学院教育の成果に対して外部評価を受ける機会ともなった。さらには、文学研究科委員が主体となる塾内学会（三田哲学会、三田史学会、慶應義塾大学藝文学会、三田図書館・情報学会）は、各々の研究大会や公開シンポジウムの企画・運営を通して、隣接専攻・分野間の研究水準を相互に確認し、指導演法に関する知見を交換する機会となっている。</p>

	<p>社会人を対象とする図書館・情報学専攻情報資源管理分野では、外部有識者によるアドバイザーコミッティの評価委員会を、2021年および2022年の9月に開催し、人材育成の目的に沿ったカリキュラム、教育・指導体制であるかの評価を受けた。委員会には専任教員全員が出席し、それぞれの授業内容についての報告を行った。また修了生に対して受講の効果、満足度などに関するアンケート調査を実施、その結果は外部に公開した。</p> <p>2021年に開館した慶應義塾ミュージアム・コモンズを通して研究科内での連携を図った。例えば、その開館に先立ち『人間交際』と題してアート・センター、文学部古文書室、附属研究所斯道文庫、福澤研究センター、美学美術史学専攻、民族学考古学専攻、三田メディアセンターの資料群をウェブ上に展示した。これは、領域を超えた研究指導の枠組みを構築することを念頭に置いた取り組みである。</p> <p>博士論文提出に関する内規およびプロセス図を学位ごとに作成・整備し、2021年6月にウェブサイトに掲載した。なお、これらは2019年に出された大学評価（認証評価）での指摘に対応した改善である。</p> <p>2022年度の春学期および秋学期の終了時に、修士課程の授業を対象として、授業評価アンケートを実施した。その結果については、文学研究科FD委員会にて確認し、2023年度以降の改善につなげていく予定である。</p> <p>2022年3月および12月の2回、文学部および社会学研究科との共催で、佐々木銀河氏（筑波大学）による講演会「発達障害の診断や傾向のある学生への合理的配慮と修学支援」および「発達障害の診断や可能性のある学生への対応能力の向上に向けて：仮想事例動画を用いた実践的事例検討」を開催した。</p>
02_経済学研究科	<p>■研究科の授業は少人数クラスであるため、2022年度は、対面授業を基本としつつ、オンライン授業の利点を活かしたハイブリッドな形態で授業が運営された。オンライン授業については、2020年度以降研究科教員を含む多数の学部教員によってオンライン教育についてのフォーラムが掲示板形式で持たれている。このフォーラムにおいて、オンライン教育にかかわるかなり技術的な論点から、オンライン教員が及ぼす影響、学生の視聴環境についての議論などに関してたちいった議論が展開された。教員には欧米の大学での教育経験がある者が少なからずおり、オンライン教育で先行する大学のノウハウが伝えられた。それらのノウハウは2020年度以降毎年度授業で実践され、授業に参加した院生の意見をフィードバックしつつプラクティスを蓄積し、授業の改善に活かされている。</p>
03_法学研究科	<p>(1) 法学研究科では、博士論文作成のための合同論文指導研究発表会、各分野における合同演習及びプロジェクト科目等、専攻分野を同じくする複数の教員が一堂に会して恒常的に大学院生の指導にあたる体制がさまざまにとられている。これらの機会を通じて学習成果の達成状況や、そのために必要となる指導の充実度を教員間で確認し、適宜の措置がその都度行われている。</p> <p>(2) 2022年10月より、大学院FD委員会を設置し、法学研究科の教育・研究におけるFD活動の充実に取り組んでいる。</p> <p>(3) 進学希望者への訴求力を高める取組みの一環として、2022年度より、法学部公式ホームページ内に大学院進学特設サイトを開設した。また、2023年度の公開に向けて、法学研究科独自の公式ホームページを開設準備中である。</p> <p>(4) 2022年12月から翌2023年1月にかけて、「ダイバーシティ実態調査」を実施した。法学研究科の教育・研究において性別、性的指向、障がいの有無、国籍や人種・民族・文化的出自、家庭の経済状況など、学生や教職員が持つ多様な背景が尊重され、すべての人が安心・安全に過ごすことができる環境の創出・維持を目指し、そのための制度と組織運営の改善策を検討するのに必要な基礎情報を得ることを目的としたウェブアンケート調査である。調査対象は法学研究科所属の大学院生、教職員、法学研究科で授業を担当する非常勤教員であり、調査結果はこれらの調査対象者に公表された。</p>
04_社会学研究科	<p>2021年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.1. FD講演会（2022年3月22日 オンラインによる開催および録画のオンデマンド公開） 佐々木銀河（筑波大学人間系准教授）による「発達障害の診断や傾向のある学生への合理的配慮と修学支援」に関する講演（文学部主催、文学研究科・社会学研究科共催） 1.2. ガイダンスの動画を作成し配信 1.3. オンライン授業のためのチューター制度を継続 1.4. 留学生対応で入学試験および入学後のサポート体制の拡張 1.5. 複数教員が共同で担当するプロジェクト科目の継続（教員相互の授業運営の向上に向けた取り組みとして） 1.6. HPに社研FD講演会の記録を掲載 1.7. 研究科委員会にてFD活動を協議 <p>2022年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.1. FD講演会（2022年12月14日 オンラインによる開催） 松浦良充（常任理事）による「慶應義塾大学における 教学マネジメント推進と大学院教育」に関する講演 1.2. 留学生対応で入学試験および入学後のサポート体制の拡張 1.3. 複数教員が共同で担当するプロジェクト科目を再設（教員相互の授業運営の向上に向けた取り組みとして） 1.4. HPに社研FD講演会の記録を掲載 1.5. 研究科委員会にてFD活動を協議
05_商学研究科	<p>商学研究科では、現在、主に次のような取り組みを行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 大学院生を対象とした合同演習科目を開講し、各分野・領域内で研究指導の方針や専門知識の共有を図っている。 (2) 博士論文報告会において、様々な分野の教員同士が他の教員の指導および別領域の知見を得る機会を設けている。 (3) 学事振興資金（大学院枠）による最終報告会を開催し、異分野の大学院学生の指導や異分野の知見を得る機会を増やしている。 (4) 分野別の大学院の合同演習の機会に同分野の教員の教育及び研究について議論し検討を行っている。 (5) 2022年度には基本方針検討ワーキンググループの活動を通じて、他大学大学院のカリキュラムについて再検討をする機会を設けた。
06_医学研究科	<p>研究科委員のほとんどが医学部教員であるため、医学部の教員FDにて教育能力の向上を行っている。</p> <p>それに加え、医学研究科独自のFDとして、毎月の定例研究科委員会にて、毎月委員1名の研究内容を発表し、お互いの研究内容を理解し、視野を広げている。</p>
07_理工学研究科	<p>理工学部と同様のアンケートシステムを全科目について実施し、結果と教員からのコメントを学生に公開している。組織としての取り組みも理工学部と一体となって行っている。</p>

08_経営管理研究科	<p>経営管理研究科は、ケース・メソッドという一種のアクティブラーニングを重視している。ケース・メソッドは、学生がビジネスに関する様々なケースが記述された教材を事前に読んでからクラスに参加する。クラスにおいては、講師は、学生間の議論をファシリテートしつつ、必要な学術的、実務的な知識を伝える方式である。FDは、このケース・メソッドの習熟を主要な目的としている。具体的には、下記のような取り組みをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーバード大学のビジネススクールが主催するGlobal Colloquium on Participant-Centered Learningというセミナーに経験年数の浅い教員を、毎年、派遣している（2022年度は新型コロナウイルスの影響で休止したが、2023年度は参加予定）。 ・慶應ビジネススクールが実務家に向けて行う研修（高等経営学講座）がある。この研修に出講するベテラン教員が行うケース講義を他の教員が聴講できるようにしている（2022年7月）。 ・教員が、授業をお互いに見学することによって、ケースを使ったクラス運営の向上を図った。 ・「ケース」教材を作成するにあたって、教員同士で批評をしあった。 ・カリキュラム構成や授業内容をより良くするため、毎学期、ゼミを除くすべての授業科目においてオンラインでアンケートを実施している。 ・年齢や国籍の点で多様なバックグラウンドを持った学生が在籍しているので、教授会を利用してハラスメント研修などを行った。
09_政策・メディア研究科	<p>【1】英語授業のトレーニングの実施 SFCではFDの一環として、2014年度から教員向け英語による授業運営に関するトレーニングを実施している。2021・22年度は以下のトレーニングを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践トレーニング「実際に英語で行われた授業に対するアドバイス」 <p>各学期に英語で開講される授業（GIGA科目）の20～30分間を録画し、外部専門家（ベルリッツ所属の英語ネイティブ講師）がフィードバックシート（および希望者には後日面接）にてアドバイスを行う。希望者には後日オンライン面談も設定可能。</p> <p>【2】授業調査の実施 各学期1回（学期終わり）、授業調査を実施している。 全学生・全教員が自分がかかわった全ての授業を振り返り、教員と学生の相互のフィードバックと、今後の履修者への情報提供を行う。</p> <p>【3】オンライン授業各種サポート（Webページ作成、セミナー実施） 昨年度に引き続きオンライン授業のサポートを実施した。</p> <p>【4】アゴラ（シン・アゴラ）の開催 着任時期や年齢やステータスに関係なく、教職員全員が率直に意見を言い合うシン・アゴラという「知の対話」の場を設け、SFCにおける研究と教育のあり方などについて、頻繁に開催し議論を重ねている。 2021年度に実施した以下の5回では、COVID-19の対策から教員に深く関わるカリキュラム、科研費など多岐に渡る話題が提供され、活発な議論が交わされた。 「ポピュリズムと陰謀論の最新動向」「カリキュラム評価改訂タスクフォースより中間報告」「極限サイヤンス」「目指せ科研費ゲット！そのコツ」「SFC教室の換気能力の測定結果」</p> <p>2022年度に実施された以下の7回では、キャンパスに関わるさまざまな取り組みから世界情勢まで、総勢20名の教職員が登壇し、多種多様な話題提供や議論がなされた。 「SFC教員、ロシアウクライナ情勢を語る」「SFC周辺地区のまちづくりの可能性」「新任教員、いらっしゃい！2022」「SFCキャンパスのカーボンニュートラル化について」「キャンパスメンタルヘルスの現在-SFCの今後について考えよう」「SFCキャンパスのさらなる国際化」「新任教員、いらっしゃい！2022...秋」</p> <p>【5】SFC FACULTY AWARDの実施 教員によるSFCへの貢献のうち特に顕著な活動を讃えて互いの模範となし、SFCの持続的かつ自律的な発展を促進することを目的に、2020年度より「SFC FACULTY AWARD」を開設している。 2021年度は総合政策学部5名、環境情報学部9名、看護医療学部5名、大学院政策・メディア研究科3名に授賞した。2022年度については現在審査中である。</p>
10_法務研究科	<p>(1) 「FD・授業評価委員会」として3名の教員が担当している。 (2) 年に一度、「FD研修講演会」を実施している。 (3) 毎年、春学期・秋学期のいずれかに、専任教員に他の教員の授業参観を義務づけている（非常勤教員は任意）。 各教員は、keio.jpを通じてあらかじめ他の教員に授業参観を申込み（参観対象の選択は自由）、参観後に意見（参考になった点、改善を要する点など）を提出し、被参観者はこれについて意見を述べる。 参観者・被参観者の相互の意見は、匿名で集約したうえ、研究科委員会で共有し、各教員の授業改善の参考としている。 なお、2021年度は、オンラインによって授業参観を実施した。2022年度は、対面での授業参観を実施した。 (4) 毎学期末に、すべての授業の履修学生に「授業評価アンケート」への記入を求め、授業担当教員が閲読・関与しない形で学生部が匿名のデータとして集計し、keio.jpを通じて、授業担当教員がこれに意見（予想通りの評価、意外な評価など）を提出する。 集計された各教員のデータ、および、これに対する教員の意見は、keio.jpを通じて、教員・学生が過去に遡って閲覧することができる。 なお、学生がアンケートに記入した個別の自由意見は、担当教員のみが閲覧できることになっており、公開されていない。 (5) (4)のほか、随時、学生から匿名で自由に意見を述べる「通報窓口」が設けられている（アカハラ、パワハラ、セクハラ等々の予防）。提出された意見書は、公序良俗、社会的常識に反する内容を除いて、keio.jpで公表される。</p>
11_健康マネジメント研究科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の実施と結果のフィードバック ・APRIN eラーニングプログラム（eAPRIN）の実施 ・シンポジウム・講演会等への参加（任意） <p>2021/10/13 研究科企画講演会「医療リアルワールドデータ×量子コンピューティングの現在地」（オンライン） 2022/03/05 「KEIO SPORTS SDGs シンポジウム 2022」（オンライン）</p>

	<p>2023/02/26 「KEIO SPORTS SDGs シンポジウム 2023」（日吉・来往者およびオンライン） 2023/03/15 看護ベストプラクティス推進セミナー「教育研究組織の心理的安全性」（オンライン）</p>
12_システムデザイン・マネジメント研究科	<p>FD 委員会を設置し、研究科が目指すコンセプトや未来像、望ましい教員・研究者人材、教育手法や教育システム・施設等のあり方を検討し、その課題を解決すべく、毎年複数回ほど専任教員全員で FD 活動を実施している。</p> <p>（1）授業評価アンケートの実施 セメスターごとに各授業に対する学生の理解度・満足度・改善点などを知るため、匿名回答のアンケート調査を行っている。用紙を授業で配布・回収するか、Google Form や Qualtrics 等を使ってオンラインで実施しており、各教員は結果を授業改善に活用している。</p> <p>（2）教員間討議 2021 年 8 月 26 日・2022 年 3 月 2 日・5 月 25 日・8 月 25 日にコロナ禍の下でも討議できるオンライン・ディスカッションツール（Miro）を Zoom 上で利用し、FD（教員間討議）を実施した。討議した議題は以下のような項目であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後 5～10 年のスパンで教育および研究に関して SDM 研究科が目指すべき方向性について ・育成したいと考える多様性のある人材像を明確にした上で、そのための教育カリキュラムおよび修士および博士研究の指導の方針について ・全学の博士教育への貢献について ・今後採用をおこなう専任教員の人材像について
13_メディアデザイン研究科	<p>1 教員全体での FD 活動 教員の peer review による教育の質向上を目的として、以下の 5 点について年 2 回実施している：</p> <ol style="list-style-type: none"> 学生授業評価を参考にして、全開講科目について全教員が確認する。課題がある場合には、改善点などを議論して次回の授業に反映させる。 全教員のチームビルディングを通じたリーダーシップ、戦略立案のメンタリングを行う。 全教員で大学の未来像（社会のニーズ、人材育成、活動内容）を設計する。 全教員で、次の時代に向けた教育のあり方の検討と戦略立案を行う。 全教員で、次の時代に向けた教育方針に対応するカリキュラムの検討を行う。 <p>また、小規模なカリキュラムの変更は毎回の FD 活動で検討し、実施しているが、入学した学生の入学時のスキルセットや講義の取得状況等から、大規模なカリキュラム変更も数年毎に計画し、2008 年度の研究科の創立以来、3 回実施している。</p> <p>新任教員が開講する講義に関して、シニア教員のメンタリングを受けながら講義の目的や内容をまとめたシラバス案を作成し、教員会議や FD 会合でカリキュラム全体との整合性を確認している。必要に応じて修正を依頼し、開講の準備をする。</p> <p>2 テニユアトラック教員のための個別 FD 活動 テニユアトラック制度に基づいて、テニユア審査までの期間、年度末に研究科委員長がテニユアトラック教員と個別面談を実施し、教育、研究、運営の貢献度を振り返り、次年度の活動方針を定めている。</p> <p>3 2021 年度の活動実績 全教員による FD 活動 実施日：2021 年 7 月 29 日（Zoom によるオンライン会合） 春学期授業の振り返りと改善点 オンライン授業の工夫点の共有（best practices） カリキュラムのリデザイン 実施日：2022 年 2 月 17-18 日（Zoom によるオンライン会合） 対面とオンラインによるハイブリッド形式の世界の先進的な取り組みの紹介 ハイブリッド形式の授業についての議論 ハイブリッド形式の研究成果発表についての議論 秋学期授業の振り返りと改善点</p> <p>4 2022 年度の活動実績 全教員による FD 活動 実施日：2022 年 7 月 28 日（Zoom によるオンライン会合） 米国大手 IT 企業における AI など最先端技術の動向についての講義 春学期授業の振り返りと改善点 実施日：2022 年 11 月 6 日（Zoom によるオンライン会合） 2023 年度に向けた学習環境整備と改善点 2024 年度以降に向けたカリキュラムのリデザイン 実施日：2023 年 2 月 16-17 日（Zoom によるオンライン会合） コロンビア大学准教授による新しい教育モデルと教室デザイン、Faculty development についての講義 秋学期授業の振り返りと改善点 カリキュラムのリデザイン 修士論文の指導方法の強化について</p>
14_薬学研究科	<p>教員は講演会、研修会に原則全員参加となっている。FD の開催記録および資料は、全教職員が閲覧できる BOX にて共有し、各 FD 終了後に Google フォームを用いてアンケートを実施している。</p> <p>【大学院 FD】薬学研究科教員はすべて薬学部にも所属しているため、研究科単独の FD については 2021, 22 年度は実施なし。</p>

<p>その他</p>	
<p>その他（大学全体）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・協生環境推進室「協生環境推進ウィーク」 協生環境推進室と大学FD委員会が共催し、「協生環境推進ウィーク」と題して、「ワーク・ライフ・バランス」、「バリアフリー」、「ダイバーシティ」に関連する啓発活動イベントを開催した。 (2021年度 2022年3月3日(木)～3月17日(木)) / 2022年度 2023年2月24日(金)～3月13日(月)) ・障害のある学生への合理的配慮に関する動画の公開 協生環境推進室と大学FD委員会が共同し、大学専任教員を対象として、障害のある学生への合理的配慮に関する動画を公開した。(2022年2月15日～) ・すべての教職員を対象とするアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込みや偏見）に関する研修動画を公開した。また、全ての学部長・研究科委員長については対面による研修会への出席を必須とした。(2022年度) ・GICセンターFD動画 GICセンター設置科目担当教員を主な対象としたFDを2021年度は11回、2022年度は6回開催し、授業運営に関する具体的なテーマに沿って議論・知識の共有を行った。 ・学生総合センター研修会 学生総合センターでは、学生にかかわる様々な問題を共通の基盤で考える機会として、研修会を毎年例年3月に開催しており、教員約70名および関連部署の職員が参加対象となっている。2021年度は、2022年3月16日(水)に、学生総合センター各担当の業務内容説明と抱える課題の共有を主題とし、内部の職員がプレゼンターとなって研修を行った。2022年度は2023年3月16日(木)に学生生活の現状課題に応じた「性犯罪」や「障害学生支援」、「コロナ禍を過ぎた学生の今の心理状況」の3テーマについて、塾内外の専門家の方々から講演をいただいた。 ・学生相談室 学生相談室では、地区ごとに学生支援における円滑な連携構築のため、日吉主任、学部・研究科学習指導担当教員、学生総合センター担当教員、学事担当職員等との懇談会を地区ごとに開催している。日吉地区(2021年5月26日、2022年5月25日)、矢上地区(2022年2月21日、2023年2月22日)、三田地区(2022年3月10日、2023年3月10日)、芝地区(2022年3月14日、2023年3月22日)に実施した。 また、学生相談室の全スタッフと学生部課長を対象に「ワンデー・スタッフミーティング」(学生相談に関連する研修)を行っている。2021年度は2021年9月7日にオンラインで開催した。2022年度については2022年9月9日に日吉キャンパスにて対面形式で講演・グループワークを実施した。 ・ハラスメント防止委員会 ハラスメント防止委員会では、2021年度は、2021年12月に全教職員を対象にハラスメント防止オンライン研修を実施した。 2022年度は、2022年12月13日(火)に経営管理研究科の教員向けに「ハラスメントの当事者とならないために」と題する講演をオンラインで開催した。2023年3月1日(水)から全教職員対象ハラスメント防止オンライン研修の英語版を委員会公式サイトで公開した。

以上